記入日（西暦）2022 年 5 月 15 日

一般社団法人日本医療薬学会 学術委員会委員長 殿

医療薬学学術小委員会 研究活動報告書 （最終報告）

１．小委員会名、研究テーマ

小委員会名	医療薬学学術第 5 小委員会
研究テーマ	専門認定を目指す薬剤師育成のための症例データベースの構築

２．小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	イシヅカ マサコ
	氏 名	石塚 雅子
	所属施設の名称（正式名称）	名古屋大学医学部附属病院

	氏 名	所 属
構成委員	伊勢雄也	日本医科大学付属病院
	米村雅人	国立がん研究センター東病院
	飯原大稔	岐阜大学医学部附属病院

３．研究の目的

学会の定める専門薬剤師認定制度に申請するため、毎年、広範な知識と鍛錬された技能に基づいた薬学的管理を記録した症例報告書が提出されているのにも関わらず、それをデータとして利活用することができていない。症例報告を集積するシステムを構築することにより、3 つの利用法が可能となる。①専門認定申請時の審査システム ②教育用の閲覧システム ③医療的貢献のデータ集計。

この研究により、仮のシステムを構築し、その実用性、有用性を分析する。また、少数のデータを実際に入力し、実現性を確認する。

注） 枠の大きさは必要に応じて修正し、詳細に記載すること。

４－１．研究活動の総括

1．研究活動の内容及び研究成果

2019 年より、この研究を開始し、症例報告集積システムの構築について検討した。症例報告に必要な情報を、簡便かつ不足なく収集するために必要な項目、記入方法、選択肢、チェック機能についてイメージを作成した。その後、実際に自施設の症例を集め、必要情報の妥当性について検討した。また、入力時の問題点、煩雑さ、入力者にとってのメリット、入力することへのモチベーション等について話し合いをした。さらに、システム開発会社に会議への出席を依頼し、実際に実装可能なシステム機能、開発費、経費について説明を受けた。その結果、費用及び設定可能なシステムを理解するとともに、重要とする機能の取捨選択が必要であることが分かった。

症例報告のデータベース化により、症例報告の様々な利活用が可能となると考えるが、データベースのシステム機能の取捨選択も重要であることが分かり、さらに情報収集および検討が必要と考え、研究の継続が望ましいと考え、継続申請をした。

しかし、2020 年度は、コロナ禍で集まれず、各々が検討したシステムのイメージについて、話し合うことが難しくなった。また、システム開発会社との相談も難しくなり、研究を望ましくできなかった。

一方で、日本医療薬学会の認定制度は変遷し、症例報告も電子的にアップロードするように変更された。また、コロナ禍のミーティングツールとして、web 学会や e-learning、動画視聴などのシステムが普及し、急速に電子的なツールに進歩が見られた。

今後も、電子的な授業や、論文閲覧、情報共有の方法は発展すると考えられ、ユーザーの意識も変わると考えられる。

当初、専門認定申請時の審査システム　教育用の閲覧システム　医療的貢献のデータ集計への貢献を考え、この研究を始めたが、最新のシステムを見渡し、一からの構築ではなく、新技術の導入に切り替えた方が費用を抑えることができると判断し、この研究を終了することとした。

注）枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

４－２．研究業績（学会発表、論文等）

特になし

注）本研究活動の成果に関する学会発表や論文情報を記載すること。本報告書の提出後、本研究の成果を以て得られた新たな研究業績（学会発表や論文等）が生じた際には、本項目を更新した報告書を提出すること。
枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

５．共同研究、他学会・団体からの支援（ＣＯＩ申告を含む）

なし

注） 提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。

６．倫理指針、科学者の行動規範、個人情報保護法等への適合状況（倫理審査等の受審及び承認取得状況を含む）

なし

注） 前回提出済みの研究計画書又は研究活動報告書の記載事項から変更がある場合にのみ記載すること。